

「海外年金基金の ESG ファクターへの取り組みに関する調査研究」

報告書の公開

平成 22 年 2 月 5 日

財団法人年金シニアプラン総合研究機構(*)は、財団法人トラスト 60 より受託した「海外年金基金の ESG ファクターへの取り組みに関する研究」を実施し、その成果を取りまとめた報告書をこの度公開いたします。本報告書の PDF ファイルは、当機構のホームページでご覧いただくことが可能です(無料)。また、本報告書の製本版をご希望の場合は、製本料実費相当(1,600 円、なお、別途送料が必要です)にて配布いたします。

年金スポンサーや運用機関をはじめ年金運用に携わる方を中心に本報告書を広くご活用いただくことで、わが国における ESG 投資に関する議論の進展に少しでも資するところがあれば幸いです。

※PDF版のダウンロードは[こちら](#)

※製本版のご購読申込は[こちら](#)

本報告書の概要

研究の背景・目的

近年、気候変動への関心やコートポート・ガバナンスの重要性の高まりなどから、Environmental(環境)・Social(社会)・Governance(コーポレート・ガバナンス)のそれぞれの頭文字を取った ESG ファクターを投資プロセスにおいて考慮しようという動きが世界的に広まっている。現在、海外の年金基金は ESG ファクターを考慮した投資(以下「ESG 投資」と言う)の実施が進んでいると一般的に言われているが、一方でわが国の年金基金においては、そのような投資が広まる兆候はあまり見られない。そこで、実地調査等をもとに海外の ESG 投資の現状を整理した上で、わが国の年金運用の置かれている現状を浮き彫りにし、ESG 投資の普及の糸口を探ることを本研究の目的とした。

海外年金基金の ESG 投資の現状を踏まえたわが国へのインプリケーション

海外年金基金の ESG 投資の実施に関する現地

調査結果を踏まえ、次の事項について、日本の年金運用における ESG 投資の普及に向け示唆するところを整理した。[第 1 章]

■ 年金基金を取り巻く状況

- ✓ 各国の社会的・文化的背景
- ✓ 法規制
- ✓ ESG 要因の考慮と受託者責任との関係
- ✓ ESG 要因の考慮とパフォーマンス
- ✓ 年金基金間の競争

■ 年金基金自身による ESG 投資への取組み

- ✓ ESG 投資のアプローチの変化とパッシブの価値増大
- ✓ 共同エンゲージメント・クリアリングハウスの拡大
- ✓ 批准条約等との一貫性
- ✓ ESG 専門家との共同
- ✓ 実験的プレーヤーの存在

■ 年金基金等が直面する課題とそれに対する対策

- ✓ エンゲージメントと各国文化との低い親和性

(*)財団法人 年金シニアプラン総合研究機構は、年金制度と年金資金運用および年金生活に関する専門研究機関です

- ✓ “SRI”という名称が持つ旧来のイメージ
- ✓ 金融危機の影響
- ✓ 会計基準・財政基準・業界慣行による短期思考
- ✓ ESG 投資に関する情報の不足

■ むすび

- ✓ ESG 投資に関して先進的な欧州の年金基金は総じて ESG 投資への取り組みを、各国の法的、社会的要請に応じて進めてきた。
- ✓ 日本において ESG 投資を促進するために、年金基金の主体的な取り組みに期待しても限界があり、ESG 投資を促進するような周囲の条件整備を図ることがむしろ早道といえる。
- ✓ 政治のリーダーシップや行政的な目標の明確化は ESG 投資の大きな促進要因になると考えられる。このきっかけになる可能性があるものの1つとして環境問題が考えられる。
- ✓ 従来 SRI と称された投資手法であるが、環境問題の比重の高まりなどを踏まえ、今後は ESG 投資と呼ぶことが適切であろう。
- ✓ 投資に対するより高い国民意識の中で ESG 投資が発展していくようになることを期待したい。

海外年金基金の ESG 投資の現状調査に基づく報告

■ ESG 投資を日本の公的年金に広げるための提言

欧米における社会的責任投資発展の歴史、年金基金との関係、PRI という新たな考え方などを整理し

た上で、長期運用を前提とする年金運用と ESG 投資が親和的であること、とりわけ公的年金はその性格・責任上 ESG を考慮すべきこと、日本の公的年金に ESG 投資を広げる契機として温室効果ガス削減が考えられることなどを指摘した。[第 2 章]

■ ESG 投資の実施方法

いまだ発展途上にあるといえる ESG 投資の手法を、伝統的資産投資、オルタナティブ資産投資、及び株主行動に分類し、最新の動向を交えて定義・解説を行なった。また、ESG 投資実施にあたっての体制構築に関する事項(投資方針の策定、人材の配置、外部情報の購入、ESG 投資のコスト)について一般論を示した。[第 3 章第 1 節]

また、ESG 投資の手法の中で現在主流となりつつある「エンゲージメント」と「インテグレーション」に注目し、(対面インタビューを実施した)欧州年金基金の両手法への取り組みを詳細に整理・分析した。[第 3 章第 2 節]

■ 欧米年金基金の ESG 投資のベスト・プラクティスの紹介

現在、ESG 投資に熱心に取り組んでいると言われる欧米の主要な年金基金等(6 カ国・23 機関)について、対面インタビュー及び文献調査を行い、各年金基金等が当該投資に対して実際どのように考え、どのように実践しているかを調査した。[第 4 章]

以上

このプレスリリースに関するお問い合わせ先:

(財)年金シニアプラン総合研究機構 研究部 塩田・笠島・川名・谷本 (電話: 03 (5793) 9412)